

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 金賞

ごみの分別と税金

羽生市立西中学校

一年 大橋 彩良

私が今、心にかけていることは、ごみの分別である。ペットボトルは、ラベルをはがして不燃ごみへ、ボトルは資源ごみとしてリサイクルしている。大好きなお菓子の箱も以前は、可燃ごみとして捨てていたが、雑紙としてリサイクルできることを知り、分けて資源ごみにしている。ごみの分別を心がけるようになった理由は、分別されていないごみが原因でごみ処理施設や収集車で火災が発生し、多額の税金が使われていることをしつたからだ。

これらの火災が発生している要因として、リチウムイオン電池やスプレー缶、使い捨てライターなどが分別されずに捨てられ、爆発したことによるものといわれている。これにより施設や収集車が損傷し、他のところに使われるはずだった税金が、修理のために使われてしまっているのだ。

ごみの分別は、食べ物の残りなどの可燃ごみ、プラスチックなどの

不燃ごみ、びん・かん・ペットボトル、ダンボールや新聞紙などといった資源ごみに分けられており、私の近所のごみ集積場では、分別方法を教えてくださる近所の人がおり、とても勉強になる。分別を気にせず、お菓子の箱を可燃ごみとして捨てたところで、火災が発生するとは思わないが、きちんと分別を心がけることにより、火災を防ぐことができ、他のところへ税金を回すことができるのではないかと思っている。

世間では、減税を求める声が広がっており国民の生活を安定させるうえで、減税となればありがたいことであると思うが、一方で、ごみの分別や税金で購入したものを大事に使っていくことなど、私を含めた国民一人ひとりが心がけることを続けていくことで、老朽化した公共施設やインフラの整備、災害への備えといった必要などところに税金を回せるようになるのではないかと考える。

羽生市では、使用している清掃センターの老朽化に伴い、現在行田市と一緒に新しいごみ処理施設の建設を進めており、数年後には行田市内に施設が出来上がり、利用できるようになると聞いている。新しい施設を建設する以上、多額の税金が使われることが予想されるが、施設が新しくなっても、今までどおりごみの分別を心がけ、周りの友人などにもごみをきちんと分別することを伝えていきたいと考えている。

また、地域の環境のことを考え、新しい施設の提供に役立っている税金への感謝の気持ちを忘れずに、税金について知識を蓄えていきたいと思っている。